



## コンファレンス・コール議事録

### GE-2007年度第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

開催日時:2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)

「本議事録の数字は予備的なもので監査を受けたものではありません。本書には「見通し情報」つまり、過去ではなく将来の見通しに関する情報が含まれています。その記載内容では、見通し情報は将来見込まれるビジネスや財務的業績に言及することが多く、「期待される」、「見込まれる」、「予定である」、「計画する」、「信じる」、「目指す」、「であろう」といった表現が使用されます。見通し情報では、その性格上、場合により程度は異なりますが、不確実な事項について述べられています。弊社の場合、良し悪しを問わず将来の結果に影響する可能性のある不確実性には以下のようなものがあります。金利や商品価格の変動を含む金融市場の動向、処理を含む、戦略的アクション、将来における買収事業の統合、航空・鉄道輸送、エネルギー(発生)、メディア、不動産・ヘルスケア事業を含むがこれらに限定されない取引先主要産業の将来の財務的業績、弊社保険事業における予想に反する損失発生、その他、政治・経済・ビジネス・競合・規制関連の全国、地方、および国際的な規模での要因これらの不確実性により、将来における実績はこの見通し情報で述べられているものとは実質的に異なるものとなる可能性があります。弊社では見通し情報の更新を行う責任は負いません。」

「結果は、特に指定されない限り継続的事业ベースで議論されます。」

**GE 出席者**

ジェフ・イメルト  
GE - 会長兼CEO

キース・シェリン  
GE - 副会長兼CFO

ダン・ジャンキ  
ゼネラル・エレクトリック社 (GE) - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

**コンファレンス・コール出席者**

スコット・デーヴィス様  
モルガン・スタンレー社 - アナリスト

ニコル・パレント様  
クレディ・スイス証券 - アナリスト

ボブ・コーネル様  
リーマン・ブラザーズ社 - アナリスト

ニゲール・コー様  
ドイツ銀行 - アナリスト

スティーブ・トゥーザ様  
JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー - アナリスト

ジェフ・スプレーグ様  
シティグループ - アナリスト

ロバート・マッカーシー様  
バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

ディーン・ドレー様  
ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

**プレゼンテーション****オペレーター**

皆さま、こんにちは。本日はGEの2007年度第4四半期収益に関するコンファレンス・コールにご出席いただきありがとうございます。

この度、ご参加いただく皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日のコンファレンス・コールで皆様のコーディネータを務めさせていただくビルと申します。(オペレーターの挨拶) 本会議の内容は録音されます。

それでは本日のコンファレンス・コールの主催者であり、インベスターコミュニケーションズ社バイス・プレジデントのダン・ジャンキ様に進行をお願いします。では、よろしく願いいたします。

**ダン・ジャンキ** - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ご紹介ありがとうございます。まず、本日はコンファレンス・コールご参加頂きありがとうございます。ジョアナと私は、本日にここに収益に関するコンファレンス・コールを主催させていただけることを大変光栄に思います。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

今朝6時30分に弊社のプレスリリースを発表いたしました。このプレスリリースと本日のプレゼンテーション資料と補足情報は、弊社の投資者向けウェブサイトwww.ge.com/investorからご利用頂けます。ダウンロードしてプリントアウトすることも、ウェブキャストでご覧いただくこともできます。

本日のプレゼンテーションでは、現在の状況から判断した、今後の世界および経済環境に関してお話ししますが、これは状況によって変化する可能性があります。

ここでは、2007年度第4四半期の結果と年間総収益、さらに第1四半期の展望についての最新情報をお話したいと思います。その後、皆様からの質問も受け付けます。本日は弊社の会長兼CEOジェフ・イメルトおよび副会長兼CFOのキース・シェリンが皆様のご質問にお答えします。ではジェフ、よろしくお願いたします。

## ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

紹介ありがとうございます、ダン。皆様、おはようございます。

まず、12月に開催したミーティングで示した弊社の投資と成長を示すチャートをご覧ください。好調な業績がご覧いただけるかと思えます。以前、EPSを17%増の0.68ドルまで上昇させると申し上げましたが、それを確かに達成いたしました。収益は18%増、セグメント別収益は13%増で、インフラストラクチャー事業の好成績がこれを牽引しています。

弊社は引き続きポートフォリオ変化を通じて、さらに価値ある企業を目指し努力していきます。これまで5年を費やし、保険やプラスチックなど一部事業から撤退し、インフラストラクチャー事業への投資を増強してまいりました。この結果、現在の経済環境において優良企業となる準備は万全です。

2008年度に良質な収益を上げ、10%増以上のEPS上昇を実現し、高配当と自社株買いを実現すると既に申し上げました。本日は改めてその話をしながら2008年の展望を確認していきましょう。

そして、イニシアチブについてもお話しします。実質的成長率、利益幅、収益が会社の骨組みとなり、投資家の皆様に好感触を与え、現代の様々な課題への先進的な取り組みを実現しています。本四半期は素晴らしい業績を残すことができ、現代の環境において好位置につけることができました。

次のページでは第4四半期に絞り、弊社が今日の環境をどのように考え、どのように事業を進めていくかをお話します。12月にお話ししたように、今日の環境には3つの大きなテーマがあると考えます。

まず、世界の市場とインフラストラクチャー市場は引き続き堅調です。これを改めて強調したいと思います。おそらく、今後も変わりはないでしょう。

年度の初頭に開催した弊社キックオフミーティングの直後に、私自身を含む多くの経営陣が、世界各地の新興成長市場を視察いたしました。これらの地域における経済活動を実感するためです。そして、どの地域にも、電力や航空機へのニーズがあり、インフラストラクチャーに大量の投資がなされており、インフラストラクチャーのブームが下火になる様子は見受けられませんでした。十分な資金を得た大規模プロジェクトも多数あり、成長はとどまるところを知りません。

一方、金融市場は現在、乱高下を繰り返しています。流動性はまだ見られますが価格は再設定されつつあります。ただし、乱高下は継続しています。

米国経済は減速しています。住宅業界は困難な時期を迎えています。消費者には緊張感がありますが、失業率はいまだに低く、輸出は好調です。このことはGEの事業からも見て取れます。

したがって、環境全体としては混乱が見られますが、GEを取り巻く環境は第4四半期で見てきた状態から変化はなく、2008年度に向けて準備してきた状況と一致すると言えるでしょう。

実際に行動することが重要です。それこそが弊社が好調を持続している理由であり、投資家の皆様にGEを信頼していただけてと私が考える根拠です。弊社では過去5年間に渡って、実質的成長プロセスを確立してきました。実質的成長率は第4四半期で10%であり、年間では9%でした。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

投資を続けてきた甲斐があって非常に堅調な位置につけています。第4四半期の国際事業の成長率は27%増、新興成長市場は39%増でした。弊社の構築したインフラストラクチャー事業は世界最高であると自負できます。このことから、投資家に良好な展望を持っていただけるようになり、製品とCSAの両方でバックログ増加し、競争上の優位が確立します。

ここで、利息幅とバリュギャップ、つまり価格設定とインフレの関係に注目します。価格設定については、攻めの姿勢をとり続けてきました。弊社のバリュギャップはプラスであり、これは2008年度も継続するでしょう。

自社コストにも真剣に取り組んできました。昨年度は世界的な人員削減により、事業再編の資金を潤沢に得ることができました。このため、会社のコストを削減でき、2008年度は高い生産性が期待できます。

弊社では、日本のコンシューマー・ファイナンスで米国モーゲージから撤退することにより投資家のリスクを回避しました。格付けはAAAを維持しています。価格条件の良い資産が市場に出回っている現在、これは大きなメリットです。

また、優れたリスク管理原則も遵守してきました。SIVエクスポージャーやCDOエクスポージャーはなく、それら領域での償却もなく、貸借対照表とリスク管理ともに堅調です。

キャッシュフロー生成も順調であり、予想を上回りました。インダストリアル事業のキャッシュフローは15%増でした。

2007年度のフリーキャッシュフローは180億ドルでした。さらに、投資家への資本の還元についても真剣に取り組んでおり、昨年度は250億ドルを投資家に還元し、2008年度はさらなる高配当を見込んでいます。この厳しい環境において弊社は他社を上回る実績を上げ、今後も皆様のご期待に応え続けます。

次のページでは、弊社が自己評価に利用する主な実績の評価指標の一部を示し、外部に対する相対評価についても述べます。まず、成長の面からは、注文数量の伸び率18%、収益の伸び率18%、資産の伸び率20%、実質的成長率10%となっており、誇りを持つに足る実績と言えるでしょう。EPSは目標を達成しており、四半期継続EPS成長率17%、通年18%です。

収益率は自社目標である20%の水準に迫っています。2008年には20%に達する勢いですので、この進展についてもまずまずの自信を持ってよいでしょう。

12月のミーティングでお話したとおり、弊社の利益幅は年間70ベースポイント増でした。目標の100ポイントは達成できませんでしたが、良好な伸びといえるでしょう。さらに、先に述べたとおり、インダストリアル事業の堅調なキャッシュフローに後押しされ、キャッシュフローは大変好調でした。これまで約束を実現するために努力してきましたし、今後も、さらに進歩を続ける所存です。

長期的な戦略については、四半期内にいくつかのハイライトがありました。基幹事業については、インフラストラクチャー熱についてお話ししたね。それにつきますと思います。収益、収入、受注ともに極めて堅調です。

弊社の金融サービスチームは、GE

Moneyとコマーシャル・ファイナンス事業のセグメント別収益が8%増加し、この環境において良い成績を上げました。NBCはこの四半期、推進力を大いに高めました。エンタープライズ・ソリューション事業も非常に堅調です。

Vetco Grayなどに対する昨年実施した買収案件は、いずれも契約を上回る成績を残し、Merrill Lynch Capitalの買収は今年是非実現したい絶好の機会です。

達成率の見地から見て、セグメント別収益成長率は好調でした。インダストリアル事業の四半期の営業利益は21%増加しましたが、これは同事業において過去数年間で最も優れた実績として挙げられます。堅牢なキャッシュフローと自社株買いについては既にお話したとおりです。

ひとつ注目していただきたいのは、弊社の基本年金プランです。2007年には約14%の収益があり、年金プランは170億ドルの黒字です。したがって、貸借対照表、キャッシュフロー、利益幅、収益はいずれも、この環境の中で好調に伸びています。米国の消費低下は逆風であるものの、弊社は比較的影響を受けていません。ヘルスケアにおいては財政赤字削減法に今後も注意が必要です。

成長はプロセスです。実質的成長率は10%を達成し、サービスおよびCSAは好調に伸び、世界的な成長も示しています。そして、注目のイニシアチブであるエコマジネーションはなんと17%もの伸びを見せ、140億ドルの収益を達成しました。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

これは社員とチームの努力の賜物です。社員残留率も良く、優秀な人材が揃っており、この四半期にはいくつかの素晴らしい賞を受賞しました。改めて、第4四半期に社員が示した努力を誇りに思います。これで将来への土台がより強固になったと確信しています。

続いて、2008年度について考えてみましょう。弊社の環境は、2008年に向けてのガイダンスで想定されていたとおりの状態になっています。ですから、この場では、12月にご説明した予測を再確認させていただきます。収益の伸び率は10~15%の見込み、EPSの伸び率は10%以上の見込みです。さらに、CFOAは引き続き堅調で、ROTCは20%を達成すると予想されます。

そして、弊社収益の40%を占めるインフラストラクチャー関連の各主要事業は見通しが明るく、バックログも充分であり、サプライ・チェーン能力も構築しているため、このセグメントには大きな自信を持てます。

金融サービスについては、予想どおりの展開となるでしょう。米国の消費は低下しています。年間を通して利益は下がるでしょうが、資産と利益幅においては世界的な成長が見込まれ、新事業の利益幅は非常に魅力的です。したがって、金融サービスの位置付けも堅調だと感じています。

ヘルスケアに関しては、DRAに対処するつもりです。米国内の画像診断機器市場では大きな成長が見込めませんが、世界的にはこの四半期、2007年全体、そして2008年度も、素晴らしい伸びを見せています。OECについては全マイルストーンを達成しており、第1四半期には出荷できるのではと考えております。

以上述べましたように、実現の時期一般に関しては、お約束の結果を果たしていると言えるでしょう。ヘルスケア事業が次年度の各四半期でプラス成長を続け、通年では目標である10%の成長率を達成できる自信があります。

NBCにとっては素晴らしい四半期であり、全分野で高い推進力が得られました。2008年度も好調な成績を収めると確信しています。

インダストリアル事業に目を向けると、年間を通して電気機器の市場は非常に難しいものになると予測しています。しかし、新事業であるエンタープライズ・ソリューションは好調であり、年間を通して伸び続けると予測されます。

弊社の2008年度ガイダンスは安定していると思います。チャンスとリスクの調和がとれており、将来の見通しは明るいと断言できます。

ではここで、キースに弊社の実績について話をしてもらうことにします。

## キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

ありがとう、ジェフ。

まず受注から始めましょう。引き続き、四半期の受注は好調でした。左側をご覧ください。主要機器の第4四半期の受注額は、伸び率33%の140億ドルです。

ご覧のように、大規模インフラストラクチャー、航空の好調な受注もあり、全体としては66%増の36億ドルとなりました。GE90でTripleにおいて大勝利を収めました。この四半期では180 Genxエンジンを投入したため、このエンジンでも好成績を収めています。

エネルギーは成長率50%の51億ドルです。石油・ガス事業の成長率は90%を超えています。

輸送事業にはタイミングの問題がありました。昨年は、ある米国の顧客から非常に大口の注文がありましたが、再受注はありませんでした。

ただし、ここで通年の受注額を見ると、12か月間にわたる主要機器の伸び率が29%で、2005年度末からの平均を考えると4四半期通算で平均69億ドル、最高125億ドルで、受注が伸び続けていることがわかります。これは、ジェフが説明したように、グローバルな経済状況の中で弊社が勝利を収めていることを示すものです。

インフラストラクチャー関連の受注は全体で54%増で、SmithsとVetcoを除くと40%増の伸びです。インフラストラクチャーのバックログは65%増で、過去最高の440億ドルです。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

中央をご覧ください。サービスの受注は5%増の97億ドルでした。これには、石油・ガスおよびヘルスケアが貢献しています。エネルギー・サービス事業は、電力サービスと核燃料である程度の伸びを見せましたが、航空転用事業では苦戦し、四半期の成長率が2%増にとどまりました。

航空機事業は堅調で、軍関連事業の20%低下を加味しても8%増の伸びでした。軍関連事業は波乱含みといえます。

ヘルスケアのDI実績は安定しており7%増、石油・ガスは29%増の伸びを示しました。中核的なサービスは良好に成長しています。続いて、輸送事業は12%低下しました。これは、四半期の受注状況が厳しかったことと、機関車事業における部品販売量の低下が原因です。

右側をご覧ください。オーダーフローは2%増の40億ドルで、年間通じて良好でした。家電関係はほぼ横ばいです。小売チャンネルでは安定した好成績が続いていますが、流通チャンネルと建設チャンネルで吸収されています。

そして、世界に目を転じると、エコ部門の発展に牽引されて照明事業が引き続き好調であり、電球型蛍光灯ランプは飛躍的に伸びています。したがって、第4四半期の受注は非常に堅調であり、18%増の270億ドルとなっています。通年でも18%増の620億ドルです。将来に向けた弊社の事業内容の位置付けは良好であるといえます。

では、利益についてお話しします。まず、金融サービスの利益幅と滞納額についてご説明しましょう。左側が利益幅です。青い棒は弊社の純収益であり、資本平均をパーセントで表した弊社の拠出価額です。そして緑の棒は損失調整額です。

第4四半期におけるリスク調整後の利益は、前年比およそ40ベースポイント減少していることがわかります。ただし、これによる圧力を、年間資本成長率20%増と高い生産性、そして組織改編で吸収することができました。

良い知らせとしては、この圧力の半分は長期的なポートフォリオ全体の収益から、そして残りの半分は増産により強化できる部門、さらに、後でお話しする米国の消費低下に起因しているということです。一方、弊社は低い流動性と高い価格から利益を得ています。

コマーシャル・ファイナンスの新事業の第4四半期に注目すると、第4四半期に立ち上げた事業の利益幅は50ベースポイントでした。よって、金融サービス事業では、この新事業が将来的に収益成長をもたらすのではないかと期待できます。

右側に、30日超の滞納額を示しています。これは誰もが注目する指標でしょう。基本的に、コマーシャル・ファイナンス事業では、主要設備・機器購入資金の融資残高は横ばいで、歴史的な低レベルを維持しています。ポートフォリオの質には素晴らしいものがあります。

GE

Moneyでは、全体的に滞納額がわずかに増加しており、これは米国の状況が要因です。米国を見ると、30日を超える滞納額は5.52%、59ベースポイント増加しています。GE

Moneyのページで、これによる財務的な影響について説明します。米国における滞納額の圧力を除き、米国以外のグローバルな消費者金融事業は横ばいであり、コマーシャル事業のポートフォリオは非常に好調です。

次は、インダストリアル事業の利益幅です。利益幅は70ベースポイントの年間成長率という好成績を挙げました。第4四半期における利益幅の成長率は10ベースポイントで、年間成長率70ベースポイントに大きく貢献しました。プラスの側面としては、利益拡大要因として優れた生産性があり、インフレ率を上回る価格を維持しています。

これをバリューギャップと呼びます。弊社にはインフレーションをカバーする非常にピンポイントなイニシアチブがあり、それが利益幅を拡大していることがわかるでしょう。

実際のところ、利益減についても、3つのうち2つはポジティブな話です。まず、弊社は大規模な設置基盤の構築を続けています。第4四半期の機器およびサービス事業については、GE全体で機器がサービスの3倍の速度で成長し、利益幅は60ベースポイント減です。しかし、この設置基盤を構築することにより、将来のサービス事業を構築できるようになるのです。

2番目はインフラストラクチャー事業の買収です。SmithsとVetcoの買収が大きく貢献しました。両者とも合意額を上回りました。

Vetcoでは特に顕著でした。Smithsはわずかに上回ったに過ぎず、弊社の既存事業より低い利益にとどまりました。生産性を向上させ、これらの企業のコスト構造を既存事業の利益レベルに上げる努力をすることにより、これもチャンスだと捉えることができません。

そして最後に、ヘルスケアですが、これは利益幅が高いため、四半期と年間の両方について業績合計ではダウンです。下をご覧ください。利益幅は70ベースポイント増です。ダイナミクスは12月にお話した内容とほぼ同じで、ジェフが運営委員会のリーダーの役割を果たしています。

弊社では、会社全体の利益拡大に全力をあげています。目標は、2008年度の利益幅を30～50ベースポイント増加することです。

次のページでは、2007年度に完了した事業再編についてまとめます。ご存知の通り弊社は、大幅な事業再編により、26億ドルの税引き後利益をあげました。プラスチック事業の売却が主な要因ですが、弊社のSwiss Re株と核関連のジョイントベンチャーの売却も一役買っています。

事業再編の半分は継続的な計画であり、コスト削減によりインフラストラクチャー費用を抑えるという継続的プログラムです。残りの半分は、GE Moneyからリスクを排除するための事業廃止です。ご存知のように、GE Money JapanとWMC事業は廃止となりました。

右側を見るとお分かりになるように、弊社事業分類に関する第4四半期における唯一の更新は、インダストリアル事業を中心に2000万ドルの事業再編予算が追加され、年間合計で28億ドルになったことです。第3四半期末時点では26億ドルであったため、継続的事业である事業再編については、3年間の見返りがあることとなります。会社の将来的なコストを低減させるために再投資し、GE Moneyの将来的なリスクも排除できました。

第4四半期の結果を発表する前に、財務に関する最新情報をお知らせします。今朝プレスリリースで言及したとおり、弊社の管理チームが認識した会計上の修正に合わせて、前期間の財務を更新するために8-Kを提出しました。ご存知の通り、継続的レビューは続いています。弊社は、会社全体の収益認識方針および実践に注力しています。

これを適切に遂行するために、サードパーティーのリソースを大量に確保しました。何らかのミスが見つかった場合は直ちに開示してきましたが、社内レビューで第4四半期にさらに2つの項目が見つかりました。右側をご覧ください。

1つ目は予備部品利益に関する項目です。2002年に、相殺の多い2つの方法で予備部品の会計の仕組みを変更しました。2002年の処理をレビューし直したところ、この変更のうち1項目の測定が不適切であったことが判明しました。

契約上の顧客サービス契約モデルの取得原価を、譲渡価格であるカタログリスト価格のままにしており、今日検討した結果、2002年前までにさかのぼってCSAモデルのこれらの原価を実際原価にすべきだと判断しました。この不具合により、残りの契約期間の進捗率を多く見積もり、合計契約利益を低く見積もってしまいました。

この2つのエラーは基本的に相殺されますが、進捗率を多く見積もったことは比較的大きなミスです。修正内容を見ると、下のボックスのように、多大な財務的影響があることがわかります。

2つ目の項目は長期的契約に関するものです。2004年度より前は、特定のインフラストラクチャー事業に対して、適切な収益測定原則の適用および説明をしていますが、実際は81-1に基づき、建設および製造契約の長期実績に入れるべきでした。

具体的には、石油、ガス、核燃料であり、この修正による影響は非常に小さなものです。2002年度には5.7億ドル中1500万ドルのプラス調整、2004年度には8800万ドルのプラス調整中800万ドルのマイナスと、2番目の項目は財務的影響はわずかですが、発見した以上は公開して正確に正す必要がありました。

この不具合による2002年度の影響は、報告された収益中5.7億ドルのマイナスとなります。この額は、2002年以降に全額取り戻していることがわかります。そして2008年以降、これらの契約の残り期間を通して長期的サービス契約で利益を改めて獲得していく予定です。

四半期に対する影響はわずかです。そして私が述べたように、06年度と07年度の通年の累積的な影響はゼロであり、08年以降はプラスの影響となります。さらに、キャッシュフローへの影響は皆無であり、詳細は8-K書式に記載されています。今日時点の不具合はこれがすべてであり、速やかに透明性のある解決を施すことをお約束します。では第4四半期に移ります。

## 2008年1月18日午前8時30分（東部標準時）第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

連結決算についてお話しします。左側は事業別の集計です。ご覧の通り、18%増の486億ドルもの収益がありました。2007年度の実績では、インダストリアル事業の売上が大きく伸び続け、会社全体に対する比率が19%増の291億ドルを記録しています。

収益は15%増の68億ドルで、継続的な自社株買いによるEPSは17%増を達成しました。純利益は6%増の6.6億ドルです。これには廃止事業の影響も含まれています。

そして、財務諸表では第4四半期にWMCからの最終撤退により小額の損失が出ていることがわかります。WMCの資産は1億ドルまで低減しました。知的財産および関連ITインフラストラクチャー事業を売却し、残りの事業を縮小しています。年度の残り期間を通して9000万ドルの資産であり、大きな影響はありません。

そして、キャッシュフローは非常に好調で総額233億ドルです。まもなくキャッシュフローの詳細もお見せしますが、ジェフが述べたように、インダストリアル事業のキャッシュフローは15%増の160億ドルであり、予定を10%ほど上回っています。

税率に関しては、年度の連結税率は16%で、年度予測の17%を1%下回りました。インダストリアル事業の税率は22%で、見積もった17%に加味されているため、17%と16%の誤差は金融サービスに由来します。

年度の金融サービスの税率は10%でした。これは予測を2ポイント下回っており、これは第4四半期の税率が低かったことが原因です。GECSの税率は予測を下回りました。これは国際的な収益の混在によります。

金融サービス事業の実績は純利益で測定します。米国で達成した第4四半期の収益は予測を下回りましたが、これは税率の高さに起因します。また、米国以外で達成した収益は、低い税率のおかげで予測を大幅に上回りました。これが連結税率16%の要因です。

税率の計算はアウトプットであり、インプットではないわけです。事業収益は通年で16%でした。

左側の決算をご覧になるとわかるように、第4四半期のインフラストラクチャー事業は非常に好調でした。順に説明します。コマース・ファイナンス事業は9%増で、四半期と年度ともに素晴らしい結果でした。

ヘルスケア事業は第3四半期の業績と同様でした。NBCユニバーサルは10%増であり、チームの努力が実を結び2桁増を達成しました。GE Moneyとインダストリアル事業はいずれも、7%増です。セグメント別収益は合計で13%増の86億ドルでした。

次は現金です。第4四半期は年度全体と同様に好調でした。左側には、CFOAが233億を達成したことが示されています。これは前年比2%減ですが、予定を上回っています。

インダストリアル事業のCFOAは15%増の160億ドルで、予定を上回っています。これはイニシアチブの好成績によるものです。運転資本は、インフラストラクチャー事業の好調な受注のおかげでかなり改善しました。

GECSでは金融サービス事業の配当で40%を維持して、19%増でした。次に、保険売上に関連した資産の売却による特別配当からの売却益は減少しました。全体としては好調なキャッシュフローでした。

右側では、期首の現金残高45億ドルから、現金残高を順に説明しています。キャッシュフローは左側です。支払済みの配当は除外します。年間で139億ドル、第4四半期では58億ドルの株を買い戻しました。

P&Eは30億ドルで、プラスチック事業の売却はSmithsとVetcoの買収によって一部相殺されましたが、正味ではプラスとなりました。

そして最後に、第4四半期には40億ドルのGE社債を発行しました。年度末には負債も現金も予測を上回りましたが、これによる再融資を、2008年満期の負債と2008年償還のコマースペーパーに充当する予定です。最終的に、2007年度のキャッシュパフォーマンスは67億ドルと優れた成績でした。

第1四半期と個別事業の説明に進む前に、年度全体を総括します。収益は成長率13%の1730億ドルと、世界的に素晴らしい成長でした。純利益は16%増の225億ドルです。

キャッシュパフォーマンスは好調で、資本収益はジェフが述べたように18.9%であり、目標の20%に向かって堅調です。廃止事業を含む報告EPSは合計9%増です。収益増、資金調達、事業再編と好調な1年でした。

## 2008年1月18日午前8時30分（東部標準時）第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

社内だけでなく、将来を見据えたリスク低減など社外にも多様な再投資活動を行い、ドイツと日本に金融プラットフォームを新たに構築し、インフラストラクチャー事業ではVetcoとSmithsを買収し、NBCの国際的ケーブルポートフォリオの構築など、前向きな要素がたくさんありました。ポートフォリオ投資においても非常に良好な1年でした。

右側には事業別、そして年度別のセグメント別実績を掲載していますが、これらは12月に説明したとおりです。EPSは18%増の220でした。では第1四半期に移ります。

第1四半期のインフラストラクチャーの見通しは、15～20%と引き続き堅調です。インダストリアル事業はエンタプライズ・ソリューションの好調に支えられ、5～10%増の見込みです。

コマーシャル・ファイナンス事業とGE Moneyはともに苦戦を強いられますが、GE Moneyの方がより大きな困難に直面しています。昨年の第1四半期にWMCに対して証券化相殺を行いました。これについてはGE Moneyのページでさらに説明しますが、四半期で20%減が見込まれています。ヘルスケア事業は5%増、NBCユニバーサルは5～10%増です。

右側は、第1四半期の予測についての総括です。引き続きトップラインの堅調な増収を見込んでいます。昨年度と同様インフラストラクチャー事業と金融サービスの好調に支えられて、約10%増以上の440億ドルと予測しています。

自社株買いによるEPSの4～10%増のおかげで、収益予測は2～8%増の50～53億ドルとなっています。さらに、廃止事業を含む合計報告は11～18%増です。第1四半期ガイダンスである4～10%増の50～53億ドルは、通年で10%以上という予測と一致しています。

では、各事業を見ていきましょう。インフラストラクチャー事業から説明します。ジョン・ライスのチームは、好調な四半期と年度を終えました。収益は30%増の173億ドル、セグメント別収益は26%増の34億ドルです。

主要業績は左側にあります。ご覧のように営業レバレッジは素晴らしいものがあります。X軸の下にある欄をご覧ください、インダストリアル事業の収益は31%、セグメント別収益は37%増です。

さらにインフラストラクチャー事業を見ると、前四半期では収益は30%増で利益幅が90ベースポイント拡大し、年間では収益が23%増で利益幅は50ベースポイント拡大しました。すばらしい好成績だと思います。

右側では、動きの一部をご確認いただけます。航空機とエネルギーについてももう少し説明したいと思います。まず航空機から。収益は41%増でセグメントとしての利益は27%増です。受注は極めて堅調です。受注総額は31%増で60億ドルでした。

民間用エンジン受注は63%増の25億ドル、これは前述のとおりGE90とGENxの勝利によるもので、軍関連の受注の20%減も織り込み済みです。民間実績は非常に手応えのある四半期でした。製品バックログも引き続き増加しています。

第4四半期の民間用エンジン受注額は、四半期売上の185%でした。四半期末の主要機器のバックログは19億ドルで前年比80%増です。このチームでは、41%増の50億ドルという収益も達成しました。

民間用エンジンの収益は66%増加です。前年比で118台多くの民間エンジンを販売したことになります。民間用の予備部品も堅調です。一日あたりのADORは目標である16.8%に対して19.8%でした。収益においても、軍関連は減収しました。

民間におけるこの実績は、年度全体で軟調であった軍関連を相殺してあまりあり、営業利益は27%増となりました。Smithから9ポイント、主要レバレッジから18ポイントの営業利益を得ています。したがって、航空機事業も良好な四半期でした。

エネルギー事業もまた、好調な四半期でした。収益は24%増で、セグメント別収益は38%増でした。エネルギー受注も引き続き極めて好調です。受注総額は56%増の50億ドルでした。主要機器の受注は100%以上増加しました。

発電の受注は23%増の21億ドルでした。発電のバックログは65億ドルで、前年比89%増です。この事業は非常に好調であり、特に風力発電の伸びは驚くほどです。風力発電の受注総額は137%増の19億ドルでした。風力発電のバックログは110億ドルで、06年度末と比較すると2.5倍にもなっています。

最後は原子力発電です。原子力発電は10倍増です。長い間リード案件であった新しいプラントをExelonから受注しました。これは、歴代3位となる2億ドル超の大規模受注です。これだけではなく、発電受注の価格は前年比で6%上昇しています。

## 2008年1月18日午前8時30分（東部標準時）第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

四半期の収益は24%増の68億ドルでした。発電関連の収益は38%増となりました。ガスタービン事業は好調な四半期で、この四半期には前年より40増の56基を出荷しました。風力発電は昨年の476ユニットに対し820ユニットを出荷しました。サービスは9%増でしたが、低調な原子力サービスと相殺した結果、全体で4%の増加となりました。

ただし、原子力発電の件数と価格に支えられて、営業利益レバレッジは38%のトップラインを達成しました。したがって、四半期のエネルギー営業利益率は合計で200ベースポイント増でした。これは21%のアップで、すばらしい成績でした。

残りの事業を見ると石油・ガス事業の実績が好調であったことがわかります。輸送もこの四半期および年間通して勢いがありました。垂直事業は18%減ですが、通年では4%増です。したがって、GECASとエネルギー・ファイナンシャル・サービスは共に好調であったといえます。

続く第1四半期については、引き続き15～20%の堅調、インフラストラクチャー事業ではかなりの好成績が予想されます。これは第1四半期から期待できます。

次はコマーシャル・ファイナンス事業です。マイク・ニールとコマーシャル・ファイナンスのチームは、引き続き好調な四半期および年度を迎えると予想され、収益は9%増、セグメント別収益も9%増が見込まれます。また、年度末の資産成長は23%増の3100億ドルと予想されます。

ご覧の通り、初めから恵まれた環境であることがわかります。昨年度に560億ドルの資産が加算され、第3四半期から第4四半期にかけて150億ドル加算されました。このおかげで9%の増益を達成しています。

これに第4四半期に行ったAccess Graphicsの処分を含めると18%となります。資産成長とセグメント別収益に合わせて収益を調整すると9%増で、これはキャピタル・ソリューション事業の強力な伸びに起因します。

左下の数字は四半期の不動産事業です。収益は3%減でしたが、事業についてはタイミングの問題があったと思われる。年間の不動産事業は好調で、収益も24%増でした。世界的な事業構造は非常に強力です。資産は47%増加しています。

ポートフォリオの質は優れています。年度末には790億ドルのポートフォリオのうち無収益は400億ドル未満でした。第4四半期では123件で約20億ドルを売上げ、資産に90億ドル計上しました。最終的な純資産は第3四半期から70億ドル増で、主にここしばらくで最高の債務ビジネスの好調によるものです。

キャピタル・ソリューション事業は24%増で、またしても好調な四半期でした。これはコア事業の好成績と買収利益によるものです。ドイツと日本における新しい金融プラットフォームも順調です。

主要数量と買収のおかげで資産は22%増加し、さらに外国為替差益により資産および金融サービス分野でも利益を得ました。キャピタル・ソリューション事業は、滞納額も不良債権も横ばいで推移し、資産の質は非常に高いといえます。

次に第2四半期に進めると、セグメント別収益は約5%増加すると見込まれます。弊社は引き続き良質な資産を維持し、コマーシャル・ファイナンス事業の足かせとならないでしょう。さらに、第1四半期の前年比収益は減収が予想され、それを考慮してコマーシャル・ファイナンス事業の収益を5%と見込んでいます。

次はGE

Moneyです。デーブとそのチームは7%の売上増を達成し、収益は22%増でした。世界全体での成長率は良好です。資産成長のうち7ポイントは外国為替に起因するため、コア事業の成長率は11%ということになります。

セグメント別収益7%についてみると、ヨーロッパとアジアがともに2桁増を達成しています。12月に述べたとおり、米国ではさらなる減収が予想されます。この減収は、全体的に吸収できる可能性もあります。

滞納額の増加に伴って、米国の損失引当金に1億9000万ドルを追加しました。ただし、これはGarantiの普通株を一部売却したことで相殺されています。弊社の投資内容が非常に高騰していたため、他の市場における成長に投資するため一部を現金化することにしました。

そのため、米国では体制強化のため59%の減収であり、GE Money全体では、世界的な引当金を3億3300万ドル増加しました。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

第1四半期のセグメント別収益の見通しは20%減です。GE

Moneyについては非常に困難な比較データがあります。覚えていらっしゃるかもしれませんが、前年比の証券化比較で、昨年度は通常計画を超過しWMCの損失を補填するだけの証券化活動がありました。

WMCの損失は廃止事業に流れたため、前年比約3億ドルという通常の証券化より高い値と比較していることになり、引き続き米国内での苦戦を世界的な成長で部分的に相殺することとなります。セグメント別収益は20%減です。

右側にインダストリアル事業があります。インダストリアル事業で目立つ変化は、機器サービスがコマーシャル・ファイナンス事業に計上されるようになったため、セグメントがコマーシャルおよびコンシューマーならびにインダストリアルおよびエンタプライズ・ソリューションであり、金融サービス事業でなくなったことです。個人的には、この方が分析、比較、理解しやすく、第4四半期ではうまくいったと思います。

収益は9%増で47億ドルでした。セグメント別収益は7%増でした。CNIは非常に堅調なトップライン四半期で、9%増でした。これはひとえに世界的な成長によるものです。

改めて述べると、弊社の世界全体でのインダストリアル事業および照明事業は好調な伸びを見せており、家電収益は2%増でした。前述のとおり小売部門の実績は良好で、この環境下でも5%増でした。ただし、流通部門の8%減で相殺されます。

エンタプライズ・ソリューション事業は、非常に力強い成長を続けています。事業全体は好調の波に乗っています。ご覧の通り、事業全体の総合的な成長は鈍化していますが、デジタル・エネルギー事業は22%増で、20%増となります。

旧名GE

FANUCであるインテリジェント・プラットフォーム事業は17%増、証券事業は8%増です。したがって第1四半期のインダストリアル事業のセグメント別収益は5~10%増を見込んでいます。

次はヘルスケア事業です。ジョー・ホーガンとそのチームの第4四半期は、通年の結果と足並みを揃えていました。収益は6%増、セグメント別収益は4%減で、年間を通して見られた動きと似通っています。その他の事業では、世界的に好調な成長を示し、DRAの影響とOECシャットダウンによる損失を補って余ります。

受注は1ポイントダウンしました。サービスは好調でしたが、機器は世界全体で7ポイントダウンしました。米国内では約15%減でしたが、世界的には約3%増です。

モダリティ事業では明るいニュースがありました。MR全体で7%増、超音波診断機器で6%増でした。米国のMRは8%増で、年間を通してマイナスだったことを考えるとなかなかのターニングポイントでした。ただし、世界的にはCTが18%減、超音波診断機器が横ばいと、マイナス要因となっています。

収益も同様で、画像診断機器は世界的に好調なものの、米国のDRAの影響により全体的にDIが減少しています。生命科学と臨床システム、そしてサービスは順調に伸びています。そして総計では、DRAとOECがセグメント別収益成長に12ポイントの影響を及ぼしています。

右側のフレームワークに、2007年度の業績の動きを簡単に表してみました。米国におけるDRAの影響で、その他の事業の成長が相殺され、OECの出荷停止により3%落ちています。第1四半期では、OEC製品のうち5000万ドルは出荷予定がありません。これにより、営業利益が1ポイント上昇するはずですが。

引き続きDRAによる損失が続いています。ただし、比較が平常化してくるにつれ年度が進むとともに軽減してきます。つまり、昨年の第1四半期にはDRAの影響を受けましたが、06年度末のバックログから出荷を続けているということです。

したがって、OECは第1四半期に出荷できると考えております。米国外の事業におけるDRAの減収はそのまま続き、残りのプラットフォーム・ポートフォリオは引き続き好調でしょう。第1四半期のセグメント別収益は5%増と見込んでいます。

最後はNBCUです。ジェフ・ザッカーとそのチームは、5四半期連続で収益増を達成しました。プレスリリースに記載したように、2年間以上も二桁の四半期が続いています。これはたいしたものです。収益は8%増の45億ドルで、営業利益は二桁成長です。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

動きに関して言えば、第4四半期にはネットワークの収支が増加しました。これは、番組の金銭化によるテレビ・コンテンツの収益が視聴率の圧力を超えたためです。

ご存知の通り、良い知らせが豊富にあります。今日時点で、プライムタイムでは同率1位となっています。「Today」、「Nightly News」、「Meet the Press」がいずれも好調で、視聴率トップです。

脚本家のストライキについてはさまざまな議論があります。しかし、この四半期への影響はほとんどなかったと思われます。新番組の数は減りましたが、コスト削減は大幅に進んでいます。ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、昨夜スタジオが監督組合と3年間の契約を結びました。これから脚本家との交渉がどうなるかわかりませんが、これによりリアリティショーの新番組が可能になり、どれも好調なスタートを切るはずで。

エンターテインメント事業とインフォメーション・ケーブル事業も引き続き好調です。収益は14%増で、今四半期の営業利益は23%増でした。どのデモでも、米国がトップです。サイエンスフィクションはこの四半期でケーブルネットワーク第4位となりました。ブラボーもデモ全体で記録的な視聴率を取り、高所得者向けのデモも好評でした。

MSNBCとCNBCは二桁成長です。MSNBCは視聴率において急成長を遂げているチャンネルで、26%増です。そしてOxygenの統合も進んでいます。総合的にエンターテインメント事業とインフォメーション・ケーブル事業の実績は絶好調でした。

映画チームも収益16%増、営業利益21%増と、この四半期が年間最高という活躍ぶりでした。映画の動員は好調で、DVD売上も「ボーン・アルティメイト」に牽引されて伸びた四半期でした。

そして最後に、デジタル配信をさらに進めていきます。フラのベータ版を立ち上げ、好意的な反応が返ってきています。そして、その他のオンライン・アクティビティも順調に伸びています。

つまり、第1四半期は映画とエンタテインメント・ケーブルに牽引され、堅調なトップライン四半期となる見通しです。弊社は、ネットワーク全体で好調な業績となる見通しを持っていますが、第1四半期に4月公開の映画用の大規模な広告とプロモーション展開を予定しているため、セグメント別収益は5~10%増としています。いずれにせよ、NBCの総合的な強さは続くでしょう。

ではマイクを戻します。

## ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

キース、ありがとう。

まずまとめをさせて頂いてから、質問を受けたいと思います。この非常に困難な環境の中、弊社は素晴らしい業績で2007年を終えることができ、各チームの貢献に満足しております。2008年には10%以上の増益が見込まれます。

弊社の予想には消費活動の軟調が全て考慮に入れられており、今日の市場環境は弊社が既に予想していたことです。インフラストラクチャー事業は大変好調です。NBCUは大きな弾みをつけています。

ヘルスケアにとっては重要な転換期の年となりますが、弊社は計画を遂行する自信があります。金融サービスにおいては、リスク管理が優れているので、市場が与える機会を利用出来ると考えています。

資本移転については、金融サービス売却の続行を計画しております。また、自社株買いや配当を引き続き積極的に実施します。全体的なポートフォリオの位置づけには大変満足しております。

2007年は好調でした。弊社は2008年の市場環境を十分認知しており、2008年にも堅調な成長を期待しております。

以上で、ダンに戻します。ありがとう、ジェフ。ビル、今から質問を受け付けたいと思います。

## 質疑応答

オペレーター

## 2008年1月18日午前8時30分（東部標準時）第4半期収益に関するコンファレンス・コール

大変ありがとうございます。クレディ・スイスのニコル・パレント様からの質問から始めさせていただきます。では、よろしくお願いたします。

ニコル・パレント様 - クレディ・スイス証券 - アナリスト

おはようございます。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ニコル、こんにちは。

ニコル・パレント様 - クレディ・スイス証券 - アナリスト

ジェフ、ボカでのリーダーシップチームに対するメッセージはどのようなもので、御社の2008年における最大の課題とチャンスを彼らに対してどのように述べられたかについて、大まかに教えて頂けますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ニコル、この会議は2日間にわたるものでした。初日は市場環境、そして2008年に何が経営上重要となるかについてでした。また、価格設定や資源生産性、運転資金、リスク管理についてのプレゼンテーションが行われました。

つまり、2008年における経営上の全ての重要な点に関する細かい打ち合わせです。その日はキースの仕切りのもと、2008年に実施する必要のあるすべての事項について話し合われました。

そして2日目は終日、グローバル化についてでした。米国外からの発表者全員について、そして、如何にチャンスをより迅速、効率的かつ有益に活用するかについて話し合いが行われました。2日間の枠組みはこのようものでした。

ニコル・パレント様 - クレディ・スイス証券 - アナリスト

わかりました。

それからヘルスケアに関して、受け渡しの最新情報を頂けますか？ 予定通り12月後半に、FDAに対してOECを渡すことができたのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

過去にお伝えした日程については、全て達成しています、ニコル。コンサルタントの評価を終えてから、FDAに通知しています。現在はそのプロセスの最中で、FDAの監査が予定されています。

しかし基本的には先程ご覧頂いたフローチャートの通りで、これは単なる確認プロセスであると考えております。OECについては弊社がお約束した通り実行されていると考えております。

ニコル・パレント様 - クレディ・スイス証券 - アナリスト

そうですね。ありがとうございます。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ありがとう、ニコル。

オペレーター

どうもありがとうございます。皆様、次はリーマン・ブラザーズ社のボブ・コーネル様からの質問です。では、よろしくお願いたします。

ボブ・コーネル様 - リーマン・ブラザーズ社 - アナリスト

こんにちは。ジェフの最後のコメントによると、金融サービスの売却を進めるとのことでした。個人向けクレジットカードについての情報を頂けませんでしょうか。

それからガイダンスでは、中期に同事業を売却する場合、プラスチック事業の時のような更新を伴う売却処分となるのでしょうか？もしその場合、242ガイダンスに含まれるのでしょうか？それともその時点で調整が行われるのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ボブ、最初の質問ですが、私の方からは、弊社は売却処理を続けると申し上げておきます。財務情報の監査を完了するには数か月掛かります。弊社は過去に興味を示しており、基本的には、これと他のプラットフォームが、プラスチック事業で行ったようなライン上で達成されると思われます。

何事も6か月から9か月は掛かりますが、このようにして処理が進むものなのです。しかし、弊社は同処理を遂行することに専念しております。年内に処理が完了することは期待していません。

PLCCで何が起きても、242は通年の枠組みを変えるものではないということを、今は皆様にご理解頂きたいと思います。しかし、同計画の実行前および最中に改めて検討したいと思います。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

弊社は同件につきいくつかの異なる選択肢を検討しています。これには共同経営または合併事業が含まれる可能性があります。それがどのようなもので、いかなる影響があるかについて皆様に最終的に伝える前に、まずその方法について理解する必要があります。

ボブ・コーネル様 - リーマン・ブラザーズ社 - アナリスト

そうですね。2つ目ですが、他の方も同じような質問を持たれていることと思いますが、国内のGE Moneyの具体的な状況についてです。この市場環境をどう見られていますか？御社はガイダンス、第1四半期のコアとガイダンスを行いました。GE Moneyの事業は米国で通年ではどのように展開すると見られていますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

基本的には、支払延滞における状況を把握する予想を立てています。米国では第4四半期に支払延滞が増加し、第3四半期にも増加しています。その結果、弊社は準備金を投じることとなりました。

第4四半期には、米国内のクレジットカードおよび販売財務の帳簿の両方に対し、基本的には2億ドルを注いでいます。2008年にも既に計画されています。これは2007年に準備金損失において90ベースポイント増でした。

2008年の弊社の計画は140ベースポイント増で、金額にして5~6億ドル相当と見込んでおり、慎重に受け止めております。クレジットカード事業においては、支払延滞に関する全ての報告を検討していますので、弊社は準備が整っており計画済みであるといえるでしょう。

また、ポートフォリオ管理において最善を尽くすため、集金人の数をかなり増やしております。つまり、弊社は事前に対応していたということです。弊社は2008年もそれを念頭におき、最善を尽くします。ボブ。

---

**ボブ・コーネル様** - リーマン・ブラザーズ社 - アナリスト

ありがとうございます。

---

**ジェフ・イメルト** - GE - 会長兼CEO

どうも。

---

**オペレーター**

大変ありがとうございます。皆様、次はドイツ銀行のニゲール・コー様からのご質問です。では、よろしくお願いたします。

---

**ニゲール・コー様** - ドイツ銀行 - アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。

キース、売上税ではなく仕入税が増加していると話されていますが、私のモデルでは間違いなく仕入れ税です。2008年のレベルはどの程度ですか？

GEキャピタルのグローバル連結の利益において、年内の税率が2008年にも続くと見られていると話されていました。来年度の税率はどの程度であると見られていますか？

---

**キース・シェリン** - GE - 副会長兼CFO

ニゲール、弊社は2007年通年をご覧頂いた際に、連結税率は17%となると申し上げております。先12月に弊社は、2008年の税による影響はおおよそ2ポイントの税率引き上げとなるであろうとお伝えしました。現時点での弊社の予想に変わりはありません。結果として通年16%で終わりました。

弊社は依然として2008年は連結ベースでこの値から2%増となると考えています。2008年の連結税率はおおよそ18%というのが、私の今の予想です。

---

**ニゲール・コー様** - ドイツ銀行 - アナリスト

そうですね。わかりました。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

次にGE

Moneyの支払延滞についてですが、貸貸対照表上では素晴らしい結果ですね。しかしオフバランスシートでは、第4四半期に急増が見られます。貸貸対照表とオフバランスシートの間におよそ1ポイントの差があるようです。

キース・シュリン - GE - 副会長兼CFO

そうですね。補足スケジュールのデータをご覧いただいているようですね、ニゲール？

ニゲール・コー様 - ドイツ銀行 - アナリスト

その通りです。

キース・シュリン - GE - 副会長兼CFO

基本的には補足スケジュールをご覧頂くと…同資料をお手持ちでない場合にはGEキャピタル・サービスの補足スケジュールリンクに掲載されております…GE

Moneyでは、オンブックの支払延滞は弊社のグローバルのポートフォリオを意味します。これは2,000億ドル程の資産で、基本的に支払延滞は前年比で横ばいです。

そして、オフブックの支払延滞は主にアメリカ大陸が対象となっています。第4四半期末時点でおおよそ220億ドルで、処理済の売掛金です。支払延滞は1ポイント増です。

基本的には、1年前にはオフブックでたった120億ドル程であったため、支払延滞の増加の半分はそこにある各種ポートフォリオの合計で成り立ち、残りの半分は支払延滞の上昇に起因するものです。先程、米国の消費者ブックでご説明した通りです。

ニゲール・コー様 - ドイツ銀行 - アナリスト

そうですね。つまり、米国によるものということですね。

キース・シュリン - GE - 副会長兼CFO

米国とその他合計です。半分は米国で、先程申し上げた米国の帳簿の支払延滞です。残りの半分は、プライベート・ラベルのクレジットカードによる受取勘定だけではなく、ケアクレジットの受取勘定等、各種資産の合計です。

ニゲール・コー様 - ドイツ銀行 - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

オペレーター

大変ありがとうございます。皆様、次はJPモルガンのステイーブ・トゥサ様からのご質問です。では、よろしくお願いいたします。

ステイーブ・トゥサ様 - JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー - アナリスト

どうも。おはようございます。

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

第1四半期ガイダンスについて質問があります。通常より幅が広いように見受けられます。数字が大きくなっているようです。これには何かの意図があるのでしょうか？この範囲で考慮されている不確かなものがあるのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

そのようなことはないと思います。ステイブ。改めて申し上げますが、ビジネスの基本は12月と本日ご説明したものと変わりありません。そこに意図するものは特にありません。弊社の計画では第1四半期は好調です。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

通年で10%増という2008年のガイダンスをご覧ください。弊社は、今後各四半期に実施することを考慮に入れる必要がありました。これは、通年で10%増のラインの下、この四半期を検討する適切な方法であったと思います、ステイブ。

ステイブ・トゥサ様 - JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー - アナリスト

そうですか。わかりました。

それでは最後にジェフへの質問です。インフラストラクチャー部門ですが、米国に差し迫る危機が世界中のインフラストラクチャーに影響を与えるのではないかとこの恐れがあります。ロングテール現象にある現行プロジェクトに悪影響が波及する前に、米国の状況がどの程度悪化するかについて分析されていますか？それとも、これと全く分離したものであるという100%の自信があるということでしょうか？同点についての御社の分析に興味があるのですが。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ステイブ、弊社の試みを改めて申し上げます。これは完全に分離できるものではありませんが、益々分離されつつあります。キックオフ会議の直後、当方はジョン・ライスやマイク・ニールと共にラテンアメリカを訪問しております。また、クレニッキのような幹部のリーダーシップチームを多数、インド、中国、ラテンアメリカ等の国に送り、現地の経済状況やプロジェクトの様子を把握し、融資元との対話を図っています。要は、これら全ての国において相当な労力を費やしているということです。現地が必要としている力には大きなギャップがあります。これらの国における航空マイルの収益は、依然として12~14%増です。

ラテンアメリカでは数多くの航空会社との円卓会議が開かれましたが、全社が更なる航空機を必要としています。ジョンはインドや南アフリカ等を訪問していますが、何処においても電力不足の状況です。

ですから、国内消費および輸出向けのニーズの両面に対する融資に関しては、インフラストラクチャーのプロジェクトが減速する兆しはありません。石油・ガス事業など、新たなインフラストラクチャー関連のプロジェクトへの投資が続いています。弊社はこのような状況を見ています。

ステイブ・トゥサ様 - JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー - アナリスト

わかりました。最後に簡単な質問をさせて下さい。

消費者向けに対する準備金の調整に付いて話されていましたが、勿論、これらの殆どはアメリカ大陸用にあてられるわけですよね。しかし、英国、更にはヨーロッパ全体における経済不況の可能性を考慮して、準備金を強化する検討をされたことはありますか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

わかりました。弊社の事業用の準備金合計は4億ドル増でした。先程申し上げた通り、今四半期において金融サービス合計の約半分は米国の帳簿上のものでした。残りの半分はグローバルのGE Money及びコマースに分割され、資産高に関連するものです。

弊社のリスクチームには各市場の動きや支払延滞の状況を把握するための非常に詳細なプロセスがあり、それによって準備金の方策が決定されます。また、英国では住宅ローンの帳簿に関するいかなる問題にも事前に対応できるように、集金人の数を増やしています。過去24か月以上を見て頂きますと、英国では弊社の支払い不能住宅ローンの数は減少しています。

実際のところ、弊社は2、3年前にピークに達しています。弊社はそれをよく認識していますし、リスクチームと共に熱心に取り組んでおります。皆様にお渡ししたGE Moneyの予想には、今後の経済環境の変化に冠する弊社の理解が組み込まれています。

スティーブ・トゥサ様 - JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー - アナリスト

どうもありがとうございます。

オペレーター

大変ありがとうございます。次はシティグループのジェフ・スプレーグ様からの質問です。では、よろしく願いいたします。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

こんにちは、ジェフ。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

済みません。聞こえますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

どうぞ、ジェフ。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

ありがとうございます。まず、Moneyについて簡単なフォローアップをさせて下さい。それからサービスの方に移ります。

キース、2008年の準備金は更に140ベースポイント増と話されていたと思いますが、それに付いて教えて頂けませんか？これは過去に比べて低い値であるように思われます。明らかに内容は変わっています。通常のクレジットサイクルでは、この準備金はどの程度のものでしょうか？

それから、四半期には、ある利益を準備金に当てられましたよね。これは2008年の5~6億ドル増という御社の予想の一部ですか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

まず、準備金の絶対値についてですが、弊社にとって非常に高いレベルです。第1四半期、いえ第4四半期から始めさせていただきますが、弊社の損失総額は北米GE Moneyが約6.6%を占めています。これが非常に高いレベルとなっています。

そして先程申し上げました通り、これに加えて2008年には合計で140ベースポイントを予想しており、通年では2008年に6.5%で140ベースポイントという大幅な増加になります。弊社が認識しているリスクや支払延滞を考慮すると、適切な増加値といえると思

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

います。これは定式どおりの話ですが、ジェフ、支払延滞が30日、90日になると、弊社のモデルでは直接準備金に組み込まれます。

これらの資金調達に関する点ですが、これは規模次第です。しかし弊社には数多くの異なる戦略的資産があり、世界の別の地域における展開に資金調達を続けることが検討できます。数年後にはGE Moneyも状況ががかわると考えています。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

それではサービス部門の状況に関する質問ですが、弊社全員が、サービスに比べOE設備の成長がより力強いものであるという混乱状況を理解しましたが、御社にはこの混乱状況とマージンの不安があります。私はサービスがそれ程急速に成長していないことが気になります。設備・機器の高需要や既存設備・機器の高い利用率を考慮すると、サービスの上昇が予想される場所です。しかし、例えば2007年のエネルギーサービスの受注は1%減となっています。

同点についてご説明頂けますか？出入りが激しかったことは理解しています。ADORやアプリケーション事業はかなり堅調であったようです。それでも一歩引いて全体の状況を見ると…

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

わかりました。設備・機器の成長は、サービス部門において圧倒的に素晴らしい話です。第4四半期において、弊社のサービス部門合計は10%増益でした。先に申し上げた通り、設備・機器の成長はその3倍です。

インフラストラクチャーのみを見ると、インフラストラクチャー・サービスの収益、設備・機器収益はサービス収益の6倍増でした。よって、四半期のサービスとインフラストラクチャーは10%の成長で、設備・機器は59%の成長が見られる訳です。

もう一つの点ですが、受注の表においてエネルギー何かの受注が通年で1%減であったというのは、よい点に気付いて頂きました。基本的には賃貸事業の売却を計算し直しておりません。また、原子力サービスにおいて断続的な受注のようなものがありました。コアビジネスは前年比およそ8%増です。

現在は設備・機器はモンスーン(季節風)が発生しています。弊社の設備・機器の出荷額は驚くべきものです。サービス業務において圧倒的に素晴らしい話です。この利益率でサービス収益が10%という状況に大変喜んでおります。非常に素晴らしい業績です。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ジェフ、私の方から2点付け加えさせていただきます。この状況はおそらく今後3, 4, 5年は続き、ある時点で設備・機器の勢いが失速しても、同サービスは年々歳々10~12%増加し続けるでしょう。しかしそれがCSAの方法で、消費者の使用方法なのです。

ですから、サービス部門では10%増益は5年、10年単位で続くと思えます。CSAの受注残高は1100~1090億ドルで17%増です。新受注として表されない可能性のある受注残高の中には、既に多額のサービス受注残高もあります。素晴らしい可視性があると思います。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

どうも。

オペレーター

大変ありがとうございます。皆さん、それでは次はバンク・オブ・アメリカ証券のロバート・マッカーシー様からの質問です。お願いします。では、よろしくお願いたします。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

皆さん、おはようございます。

受注については、おめでとございます。私が焦点を置いている内部ベースのフローADR受注ですが、明らかに第四半期では、今後の短期の周期的な圧力にも拘らず、傾向線を下回りました。同点についてはどうお考えですか？四半期の間に進展がありましたか？または12月や1月に、同分野において予想以上の鈍化を示す兆候がありましたか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

今四半期は弊社の予想通りでした。月次の特定の数字は手持ちにはありません。しかし、小売家電、そして明らかに住宅部門の家電は感謝祭以後、非常に不振であったことは存じ上げています。家電事業にとっては厳しい12月となりました。しかし、改めて申し上げますが、家電事業の横ばいというのは弊社の通年の予想通りで、弊社にとっても混乱でした。

一方、小売事業は大変好調でした。弊社は市場占有率を増やしています。日曜大工の大手小売業者において市場占有率を増す一方、残りの市場は住宅問題によって悪化しています。

12月は間違いなく鈍化といえると思います。しかし、第4四半期の動向については、通年の予測と2008年の計画に一環するものであったと思います。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

つまり、驚くことではないということですね。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

驚いたのは、照明機器事業の好調振りででした。

CFLは至る所ですごい勢いで売られています。受注が四半期で8%増、通年で13%というのは、世界中における蛍光灯及び白熱灯の販売によって牽引されています。照明機器事業は本当に驚くべきものがありました。国際的にも、そして米国でも上向きです。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

米国の商業用建設についてですが、御社が直面している事業状況についてコメントを頂けますか？また、GE不動産事業についてもお願いします。この部門では、商業用や資本形成の不調による悪影響のようなものが波及しているという話がありますか？米国の商業用建設に関する解説をお願い致します。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

ロブ、正直なところ、弊社は米国商業用建設はそれ程手掛けておりません。産業用事業において多少活動があります。当方からお

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

話できることはGEで見られる状況ではありませんが、他から聞く情報によると、商業用建設は明らかに鈍化していると思われます。

しかし私が常に参考にしている指標は、弊社のキャピタル・ソリューション事業です。中間市場企業やGEキャピタルには何千人もの人間が関わっており、現時点でも依然としてそれなりの活動が見られます。今後も数多くの輸出活動があり、ある程度の内部成長が期待されています。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

GE不動産の米国オフィス事業はどのような調子ですか？今後の成長に焦点が置かれる分野ですか？ここでは不動産の販売を行っていますか？米国オフィス市場に関して、GE不動産のリスク管理はどのような動向を把握されていますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

米国オフィス事業は第4四半期においてポートフォリオを幾つか売却しています。改めて申し上げますが、未だ流動性のポケットがあると思います。地域的な要素、場所次第です。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

弊社にとっては本当に需要と供給の問題です、ロブ。弊社は需要と供給のダイナミクス、そして賃貸料が伸びるどうかに基づき、投資を行っています。そして、弊社が修理、または賃貸を行った不動産の流動性を活用するチャンスがある場所です。

現在、弊社が見る大きな機会は、高い利ざやのシニア担保付け債務レベルの米国オフィスに投資を行うことです。弊社はこれが大変魅力的な市場であると考えております。弊社は建設事業は殆ど取り扱っておませんが、市場にけるビジネスの好機を見だし、現在弊社のチームは、高い利ざやのシニア担保付けレベルへの投資を行っています。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

了解しました。最後の質問ですが、脚本家のストライキに付いてですが、御社は昨夜合意に達したようですね。製作者とは比較的すぐに合意が成立されています。

脚本家のストライキが続くと、不安定性の困り込みのようなものがあつたのでしょうか？それから、今年後半には俳優のストライキの可能性があると思われますが、今年度のNBCU全体における戦争のような不安定性をどう見られていますか？投資家は不意打ちを食わされますよね。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ロバート、私が申し上げたかったのは、弊社の数字は今日の状況を表しており、第1四半期または通年においても、必ずしも脚本家のストライキに対する早期解決が計算されているわけではないということです。弊社は解決を望んでいます。製作者側が復帰したというのは、よい兆しであると考えています。

一方、リアリティ番組の好調振りは嬉しい驚きでありました。「Apprentice」や「American Gladiators」等の番組による消費者へのアピールによって、弊社はNBCUの財務力の力強さと、同環境で弊社が出来る事に自信を持ちました。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

つまり、基本的には御社のガイダンスには、その不安定性が考慮されているということですか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

私はそう考えております、ロブ。ジェフとチームはこの作成において素晴らしい仕事振りでした。弊社が必要としていた番組を作成することができました。申し上げた通り、第4四半期において脚本家のストライキによる影響はありませんでした。

第1四半期には極僅かな影響があり、第2四半期には俳優の交渉があります。映画事業の方は既にこの事態に備えております。ストライキになる場合はそれに備え、2008年のガイダンスの予想も既に設定しております。ですから、弊社は最悪の事態に備えていますが、願わくはそれを避けたいというところで、うまくやっております。チームはその準備をうまくやっています。

ロバート・マッカーシー様 - バンク・オブ・アメリカ証券 - アナリスト

お時間ありがとうございました。

オペレーター

大変ありがとうございます。次はゴールドマン・サックス社のディーン・ドレー様からのご質問です。では、よろしく願いいたします。

ディーン・ドレー様 - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

どうもありがとうございます。おはようございます。

ジェフ、これについては12月に話し合いましたが、景気後退の可能性のある厳しい債券市場におけるGEキャピタルの活動の筋書きがここで判明しています。差し押さえの可能性のあるポートフォリオを探すと話されていましたよね。これは過去にも起きていますよね。メリルとの取引によるものだったと思いますが。売りに出している圧迫したポートフォリオに関して、その原動力及び前月までにそれがどう変動したかについてお話し頂けますか？

それから、キースに対する2つ目の点、というか質問ですが、キャピタル・ビジネスは特にコマーシャル・フィナンズにおいてより高い利ざやの事業を引き受けているという話でした。これは記帳している帳簿の質によるものですか、それとも資金提供側の優位性からくるものですか？このより高い利ざやを数字で表して頂けますか？

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

先ず、既に弊社の取引をご覧頂いたと思いますが、過去に比べよりよい価格設定です。おそらく1,000億ドル以上の資産が価格改定の対象となります。マイク・ニールの立場から申し上げますと、正しい努力を行い、正当な取引を行いながら、可能な限り最高の利益をもたらすという問題にすぎません。

しかし間違いなく、今は特にコマーシャル・ファイナンス側について、90年初めや終わりに弊社が行ったような慎重かつ積極的な方法でこれを遂行するために、弊社が出来ることや数多くの資質を生む努力をすることについて熟考する最適な時期です。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

## 2008年1月18日午前8時30分(東部標準時)第4四半期収益に関するコンファレンス・コール

ディーン、新規事業における価格上昇は、単に需要供給への典型的な経済処置です。ジェフがお伝えした通り、市場の流動性の問題はあります。皆さんもご存知のように。

資本がある場合、自分達の取るリスクに対して妥当な額が支払われるべきです。弊社はリスクの価格改定を行いました。よって価格は上昇しています。コーポレートファイナンス部門の第4四半期の貸付業務では、オリジネーションは49ベースポイント増でした。

第4四半期の貸付業務では、弊社のオリジネーションの利ぎやは52ベースポイント増で、同四半期の不動産向け貸付については、オリジネーションは39ベースポイント増でした。チームにとっては、先にジェフが話した計画の実行の一部ということです。

マイク・ニールとコマーシャル担当チーム、そしてダイブとグローバルチームは、予め先を見通して価格を上昇させ、弊社が取るリスクに対するより高い代償を求めています。

ディーン・ドレー様 - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

わかりました。この点について簡単なフォローアップをさせて下さい、キース。GEキャピタルの近未来の資金提供の見込みについてですが、厳しい市場の中、より幅広いスプレッドを発行したようですが、これは御社の競合相手に対し、資金提供の優位性によるものと見受けられますが。

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

弊社は年初めに多くの債権を手掛けました。第1四半期に満期を迎える債権が200億ドル程あります。弊社は銀行の収支報告発表後、今後更なる資金提供の必要性があると見て、少々先に手掛けた訳です。今後数年は、昨年と同じレベル、8~900億ドル程の債権を取り扱うことが予想されます。

弊社のグローバルチームは数多くの優秀なアンダーライターと共に取り組み、トリプルAの格付けを求める投資家と相手先を探しています。弊社はこれを慎重に行い、また、投資家が弊社の債権を投資する際は十分な見返りを確保します。弊社には明らかに、トリプルAという資金提供における優位性があります。しかし、同市場では弊社だけでなく全ての者にスプレッドの幅が広がっています。だからこそ、弊社は先に出て市場の利回りを獲得する必要があります、ディーン。

ディーン・ドレー様 - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

ありがとうございます。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ビル、次を最後の質問とさせて頂きたいと思います。

オペレーター

わかりました。モルガン・スタンレー社スコット・デービス様からの質問です。では、よろしく願いいたします。

スコット・デービス様 - モルガン・スタンレー社 - アナリスト

皆さん、おはようございます。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

スコット、どうですか？

スコット・デービス様 - モルガン・スタンレー社 - アナリスト

お陰さまで。

御社のレバレッジ比率について質問があります。前年比で今四半期に少々上昇したようですが、代理店に揺れ動く余裕はあるのですか？それともこれは単に一時的なものですか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

いいえ。よい質問ですね。基本的にはムーディーとS&Pと共に資本モデルを開発しました。これは事業別製品ラインのレバレッジ効果に基づいたものです。つまり事業別の事業で、トリプルAレベルの損失でリスクを引き受けるための適切なレバレッジ効果が何かということです。現在はレバレッジ効果のとても高いGE Moneyによる影響が見られます。これは例えば、株式投資はレバレッジ効果が低いのに対して、住宅ローン事業などのレバレッジ効果の大変高いものを取り扱っているためです。

基本的にはGEキャピタルで問題全体をまとめて取り扱っています。コマーシャル・ファイナンスにおいては、その事業混合に基づき今四半期でレバレッジ効果は下がっています。GEキャピタル合計では、主に住宅ローンと自動車業務に牽引され、グローバル混合に基づき多少上昇しています。

スコット・デービス様 - モルガン・スタンレー社 - アナリスト

そうですね。意味がわかりました。

それから、GCASとAFSにとっては厳しい四半期であったようですが、この点に付いては触れられていません。多少断続的なものであることは理解しています。しかし、機体不足ということであれば、現在は好調な筈ですね。タイミングの面などご説明頂けますか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

わかりました。これはタイミングの問題です。通年の予想があったと思います。この計画には資産の売却も含まれていました。殆どは昨年前半にGenesis IPOと共に行われました。

比較の観点から申し上げますと、第1四半期でそれを実行した際に、前年度第4四半期の資産売却との比較を行いました。つまり2006年第4四半期対2007年の第1四半期です。ですから通年ではタイミングの問題です。EFSとGCAS共におよそ4%増で、これらの事業は多少断続的となりますが、これは12か月累計ベースで見るとべきであり、双方とも非常に好調な年でした。

GCASですが、現在弊社は十分な機体を用意できない状態です。弊社は9.11以降、受注控帳を半分に来ればよかったです。現時点で機体が必要な場合、近日弊社はボーイング社とエアバス社に発注を行いました。これは何と2010年、2011年、2012年の枠です。

航空会社は世界中で好調で、競争が激しいために、流通市場は非常に大変です。同事業は申し分ない状況です。地上にある航空機は5機に終わりました。ジェフが申し上げた通り、更に機体があればよかったです。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

EFSには素晴らしいポートフォリオがあり、時間の経過とともにこのポートフォリオから利益を得る数多くの機会があります、スコット。これは依然としてアピエーション事業が大変好調なセクターです。

スコット・デービス様 - モルガン・スタンレー社 - アナリスト

わかりました。

最後になりますが、過去のように証券化市場が下落する場合、御社の貸貸対照表上でも問題になりますか？御社にとっても変化が生じますか？

キース・シェリン - GE - 副会長兼CFO

弊社は資本市場を取り扱っています。弊社には優れた創造性があります。資本市場において取引を続けることが出来ています。第4四半期にはキャピタル・ソリューション事業に30億ドル程投じています。

第1四半期にはクレジットカードに関する取引も同市場で行われています。資本市場を利用したいところですが、弊社は第1四半期において資本市場の状況が厳しくなるであろうという事実に基づいて弊社の計画を構築しています。

可能ではありますが、どの価格で何を売るかという問題にすぎません。市場には流動性があり、投資家が自分達が望む利回りで売るかどうかがです。しかし現在のところ資本市場はまずまずですが、第1四半期はこれまで程良くないというのが弊社の予想です。

スコット・デービス様 - モルガン・スタンレー社 - アナリスト

そうですね。結構です。皆さん、ありがとうございました。

ジェフ・イメルト - GE - 会長兼CEO

ありがとう、スコット。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

それでは、皆様、本日はご参加いただきありがとうございます。本日は終日ジョアナと当方が皆様からのご質問を承っております。本日の議事録とテープは弊社のウェブサイトでご覧いただけます。改めまして、ありがとうございました。

オペレーター

皆様、本日はコンファレンス・コールにご参加頂きありがとうございました。これにて本日のプレゼンテーションを終了させていただきます。電話を切ることができます。さようなら。

**免責条項**

Thomson Financial  
は、このウェブサイトに変更を加えた何人といえども事前の通知なく本ウェブサイトに掲載の文書、内容、またはたの情報を変更する権利を留保します。

イベント議事録が作成されたコンファレンス・コールにおいては、企業はいかなる項目に関しても企画または事業見解声明を作成することができます。事業見解声明は、予期される状況およびリスクを伴う可能性および予期せぬ状況に基づきます。実際の業績は、さまざまな重要な要因およびリスクに基づいて作成される業績見通し声明のそれとは実質的に異なる場合があります。実際の業績は当事企業の最新の証券委員会への申告書により具体的に明記されています。事業見解声明は当事企業の独自の判断に基づいたものであり、不正確あるいは不適切である場合があります。したがって、事業見解声明の予想業績の正確性を保証するものではありません。

イベント議事録に記載されている情報は、コンファレンス・コールにおいて当事企業から得たものを原文のまま記録したものです。正確なトランスクリプトを提供するよう心がけておりますが、コンファレンス・コールの内容において実質的な不手際が生じる場合のあることをご了承ください。THOMSON FINANCIALまたは当該企業は、このウェブサイトまたはいかなるイベント議事録に掲載される情報に基づいたいかなる投資または決定に対して一切の責任を負いません。ユーザーの方は、いかなる投資および決定をする前に当事企業のコンファレンス・コールおよび証券取引委員会への申告書を精査されることをお勧めします。

© 2005, Thomson StreetEvents All Rights Reserved.